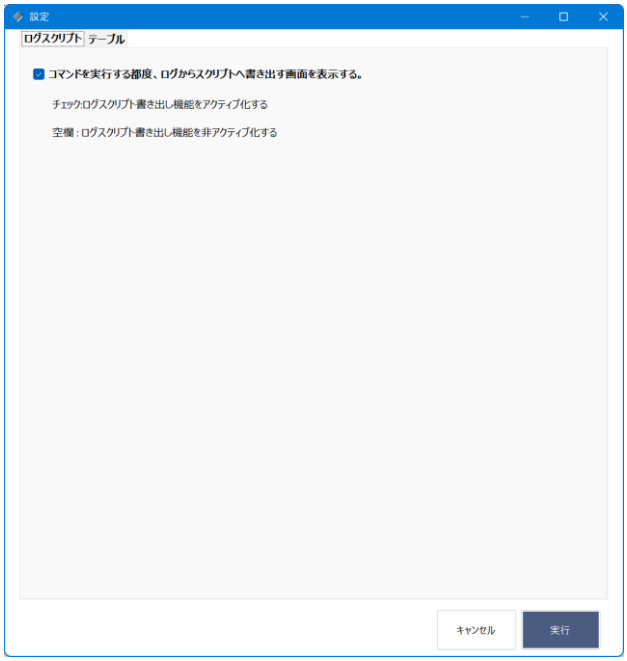
環境設定

環境を設定する

THUMGY Dataの使用環境を設定します。以下の設定が行えます。

- コマンドを実行する都度、ログをスクリプトに書き出す画面を表示するかどうか
- テーブルの表示エリアで1画面に表示するレコードの行数の設定（1,000行～10,000行）
- 数値型の桁数の最大値の設定（38桁 または 59桁）
- 日付のブランクの表示の設定（1900/01/01 または ブランク）

《環境設定》-「ログスクリプト」タブ



《環境設定》-「テーブル」タブ

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇環境設定の設定内容を確認・変更する

①プロジェクトを開きます。

②ツールバーの《設定》をクリックし、《環境設定》をクリックします。

③各タブの設定内容を確認し、必要に応じて、変更します。

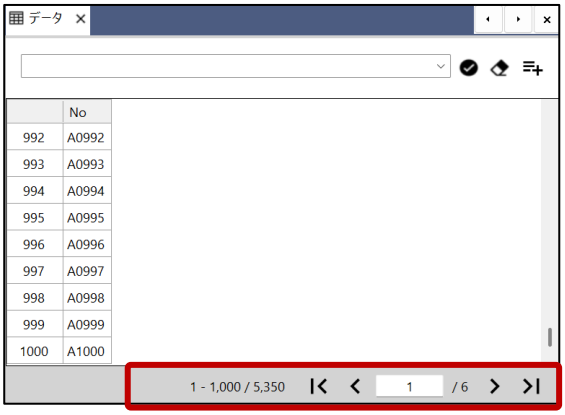
- 「ログスクリプト」タブ

  「コマンドを実行する都度、ログからスクリプトへ書き出す画面を表示する。」にチェックマークがついている場合は、画面を表示する機能が有効です。
  機能については、機能説明書「ログのスクリプト書き出し」を参照してください。

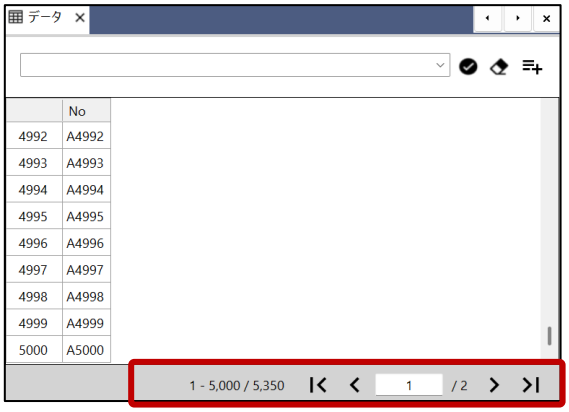
- 「テーブル」タブ

  ➢ 「「テーブル表示エリア」で表示させるレコード数（行数）を設定します。」の左側の欄に、レコード行数を半角の数字で入力します。
  初期値は「1000」になっています。1000～10000の間で設定が可能です。

  表示させるレコード数（行数）を変更した場合は、開いているテーブルを閉じて、開き直すと反映されます。



「1000」と設定した場合は、1画面に1000行まで表示されます。



「5000」と設定した場合は、1画面に5000行まで表示されます。

➢ 「小数値（整数部と小数部を含む）で表示できる最大桁数。」の左側の欄で、「最大38桁」または「最大59桁」を選択します。初期値は、「最大38桁」になっています。

＜最大桁数の選択の注意＞
数値型フィールドで扱える桁数は、最大で、整数部分30桁、小数部分29桁です。
最大桁数を使用したい場合は、「最大59桁」を選択します。ただし、「最大59桁」を選択すると、処理速度が低下する可能性があるため、計算時に表示する桁数が、整数部と小数部を合わせて最大38桁で十分な場合は、「最大38桁」を選択してください。
ただし、「最大38桁」を選択している場合に、計算結果が最大38桁を超えると丸め処理が行われ、計算結果が正確でなくなる可能性があります。その場合は、「最大59桁」を選択してください。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

➢「日付のブランクはブランクで表示します。」の左側の欄で、「オン」または「オフ」を選択します。初期値は、「オフ」になっています。

（ソースデータ）

	日付A	日付B	日付C
1	2026/04/05	0:00:00	2026/04/05 0:00:00
2			
3	2026/04/20	5:15:60	2026/04/20 5:15:60
4	2026/04/31	18:20:15	2026/04/31 18:20:15

＜オフの場合＞

	日付A	日付B	日付C
1	2026/04/05	00:00:00	2026/04/05 00:00:00
2	1900/01/01	00:00:00	1900/01/01 00:00:00
3	2026/04/20	00:00:00	1900/01/01 00:00:00
4	1900/01/01	18:20:15	1900/01/01 00:00:00

空白の日付、誤った日付は、
「1900/01/01」と表示されます。

＜オンの場合＞

	日付A	日付B	日付C
1	2026/04/05	00:00:00	2026/04/05 00:00:00
2		00:00:00	
3	2026/04/20	00:00:00	
4		18:20:15	

空白の日付、誤った日付はブランクで表示されます。

※時刻（hh:mm:ss）の空白、誤った時刻は、「オン」を選択してもブランクになりません。「00:00:00」で表示されます。

※「オン」を選択しても、ブランクの日付を抽出する式には、「`19000101`」を使用します。

（フィルターの式の例）[日付A]=`19000101`

④設定を変更した場合は、《実行》をクリックし、変更内容を保存します。
テーブルを開いている場合は、テーブルを閉じて開き直すと、設定が反映されます。
変更内容は、別のプロジェクトに切り替えても引き継がれます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.